

令和2年度第5回高岡市介護保険運営協議会議事録

日 時：令和3年2月19日（金）午後6時30分から

場 所：高岡市役所8階 802会議室

（出席委員）

炭谷委員、高倉委員、澤井委員、守田委員、山本委員、川渕委員、宮崎委員、向井委員、野村委員、茂古沼委員、坪内委員、岩坪委員、谷委員、林委員（欠席：吉田委員、木田委員、高桑委員、桑山委員、堺委員）

（事務局）

川尻福祉保健部長、森川高齢介護課長、田中副課長、大野副主幹、中原係長、裕係長、永森主査、吉野主任

（審議・意見交換要旨）

<事務局説明>

（1）介護サービス設置の考え方について

炭谷会長

どういった地域に設置するかはこれからか。

事務局

地域密着型サービスの部分については、市の方で公募し、選定委員会等を行うこととなっている。日常生活圏域（包括単位）での充足率等も踏まえた上で、どこの地域が対象となるかをお示しし、公募をかけさせていただく。

炭谷会長

地域密着型サービスというのは、地域に根差したものになっていく必要があるので、地域の選定というものが必要になってくる。

野村委員

公募を行う地域は決まっていないということか。原則として決まっているが、そこで手を挙げる事業所がいなければ、他の地域を対象とするということか。

事務局

現時点のサービス設置の考え方は、サービス必要者数、事業者の参入意向及び地域の充足率を踏まえて計画している。今後、公募を行う際に、具体的な地域をお示しさせていただく。

向井委員

公募は計画期間の初年度からと考えてよいか。

事務局

3年間の中で順次整備していくという考え方であるので、全てが初年度ではなく、段階的に整備をさせていただきたいと考えている。

<事務局説明>

(2) 事業費及び介護保険料について

向井委員

市民の所得が全体的に伸び悩んでいるものの、保険料が上がることはやむを得ないと考える。一方で、介護の在り方について考えてみると、例えば、認知症対応型通所介護の利用者1日1人当たりの収入額を計算すると、特養従来型多床室より単価が高い。また、特養従来型は24時間介護であるが、時間が短い認知デイの方が単価が高い。地域密着型サービスは、小規模のものが多くということもあるが、若干単価が高めになっている。(もうひとつは、国が地域に押し付けているという側面もある。) 介護保険料と介護保険財政を考えたとき、どのようなサービスを重点化していくか考えていく必要があると思う。

炭谷会長

基本的には介護予防につぎるのではないかと思う。重度にならない、介護を必要とする期間をいかに短くするかということに尽きる。自立支援や介護予防に視点をのこしたサービス提供が重要であり、重要となるのはケアマネジメントと介護支援専門員の力量と活躍と思う。

向井委員

おっしゃるとおりである。結局は、まさに計画が掲げている、「地域包括ケア」「地域力を高める」であり、そこは専門職がバックアップし、取組を進めていく中で力を高めていくしかないのではないかと思う。

炭谷会長

その部分をいかにうまくできるか、力を入れていけるかによって、結果的にサービス利用を抑えることができればよい。さらに市民のQOLを向上できれば1番いいことだと考え

る。それでもなお必要なサービスについて考慮していくということである。

事務局

介護保険料、給付費をいかに抑制させるかという考え方のもと、できるだけ重度化や要介護状態とならないようにするということが計画の重点事業として掲げているところである。その上で、必要なサービス整備として、今回、特に中重度（要介護3）以上の方々に対するサービス提供の考え方についてお示しさせていただいたところである。長い目で見ても、介護保険料、給付費をできるだけ抑えていく取組を行っていくことが重要であると考えている。

炭谷会長

年齢や病気の悪化など、どのような状態で介護度が上がっていき、ADL が下がっていくのか、データを分析し、高齢者の健康づくりと疾患と介護というところで、医療と介護の連携を進めていくということが大事になると考える。

事務局

今回は、介護予防のうちフレイルの部分に着目して、状態改善に向かう取組も進めていくことを考えている。

<事務局説明>

- (3) 高岡市高齢者保健福祉計画・高岡市介護保険事業計画（素案）に対するご意見と対応について

（意見なし）